



平成30年度
卒後臨床研修プログラム
東北大学病院



ト
ホ
ク
大
学
病
院

対談

卒後研修センター長×研修医

実際どうなの？

大学病院での研修

研修先を選ぶときは何を基準にしたのか。実際に研修をしてみようのか。当院で研修する4人の研修医に聞いてみました。



石川健一郎
1年次研修医
東北大学卒

本間文佳
2年次研修医
帝京大学卒

中澤 徹
卒後研修センター長

高橋成奈
2年次研修医
昭和大学卒

富永慶太
1年次研修医
群馬大学卒

医師としての姿勢を身につけてから 次のステップへ



中期研修の2年間はしっかり学ぶべき期間だと思います。まずは病態を深く理解する力を身につけたいと考えていました。一つ一つの症例にきちんと向き合い、教授回診などで色々な先生とディスカッションしながら深く学べる環境があり、自分に合っていたと思います。

中澤 研修期間を終えると嫌でも数をこなさなければならぬ時期が必ず来ます。その時に向けて、患者さんにマイナスがないように力を付けておくことが大事ですね。知識が付く前から数をこなしても、ただ経験したに過ぎません。症例を隅々まで理解して、一つの症例から多くのことを学ぶという姿勢はとても大切です。1年間研修してきた

中でそういった力が付いたという実感はありますか。2年目の研修に期待するものなども併せて教えてください。

高橋 1年目に必修の内科を回り、救急科のローテーションや当直では患者さんの初期診療を行ってきたので、プライマリ・ケアの知識や能力はしっかり身についたという実感があります。2年目は基本的な全身ケアの知識に加えてより専門的なことも学びたいと思い、志望科の眼科研修を長期間選択しました。眼科では、大学病院ならではの専門性が高いことにも積極的に関わらせていただいて、分からない分野でも自ら実践してみることで力がついてきているのを感じます。

中澤 何でもやってみることが大事ですね。大学病院にはバックアップしてくれる人がたくさんいて、色々なところに安全をチェックする機能が働いています。こんな安全な病院は他にはないと思いますので、失敗を恐れずにどんどん挑戦していきましょう。



臨床も、研究も。総合大学の強みとは？

中澤 石川先生は出身大学での研修を選んだきっかけは何ですか。

石川 私は耳鼻科を志望していて、専門の幅が広く様々な症例が集まる当院で研修することを決めました。耳鼻科は様々な科と関わりを持つため、研修医のうちに他の科の先生方との人脈を築いておけるという点も重視しました。それと、耳鼻科の診断や治療には様々なデバイスを必要とするので、東北大学の強みである医工連携といった学内での共同研究で社会に貢献することも視野に入れています。

中澤 一般に研究というと基礎研究と思われがちですが、目の前の患者さんと向き合う中で研究に発展させるというように、臨床の場で研究ができる仕組みにシフトしています。当院は臨床研究推進センターを始め研究を支援する体制が整っているので、臨床か研究かではなく両方できるのも利点だと思いますし、研修の先にある発展形のものも具体的にイメージしながら研修することができると思います。

東北大は敷居が高い？

中澤 旧帝大である東北大学は敷居が高いと思われがちですが、他大学出身の先生方は、当院で研修することに不安はありませんでしたか。

本間 私は出身が関東なので、東北には縁もゆかりもなく最初は不安でしたが、診療科によっては他大学出身の先生の方が多い科もありますし、同期にも様々な大学の出身者がいるのでこれまで疎外感を感じたことは一度もありません。

高橋 見学に来た時に感じた医局の雰囲気がとてもオープンで、大学や国籍も関係なく、やる気があれば活躍できる環境だというのが印象的でした。

富永 私も学生時代に一度見学に来て、院内や医局の雰囲気を知ることができていたのでそれほど不安はありませんでした。どの先生にも優しく親身に指導していただいていたので、東北大は他大学出身者を受入れる文化が根付いているのを感じます。

中澤 東北大学は「門戸開放」を理念に掲げているので、実際に見学に来てもらえたら、イメージとのギャップを感じていただけると

思います。学生の時のイメージと実際に研修が始まってからではどうですか。



豊富な教育資源。無限の可能性。大学病院を利用しないのはもったいない

富永 診療科の数が多く、それぞれに第一線で活躍する先生方がいる中で研修できる環境に魅力を感じましたし、各分野の最先端ではどのようなことが行われているのかも非常に興味がありました。国立大の中でもこんなに専門家の先生がたくさんいて、一つの科として独立するほどその道のスペシャリストが揃っている病院は多くはないと思います。

中澤 マンパワーが沢山あるという価値、これは大学病院の最大のメリットだと思います。しかもそれぞれが自分の目指す方向をしっかり決めて追及し続けてきた先生方ばかりですから、その知識量や指導力は計り知れないものがありますね。

富永 現在呼吸器内科で研修していますが、先日、糖尿病を併発している患者さんについて糖尿病代謝科の先生にコンサルトする機会があり、的確な診断やアドバイスをいただきました。そういった専門の先生の見解一つ一つが日々勉強になっています。

石川 私は救急をローテーションしていますが、指導体制が屋根瓦式になっていて、医師層の厚さを身をもって感じています。救急は2年目の先輩と同時期に研修する仕組みで、1年経験した先輩との力の差を感じつつ、自分も1年後にはこうなれると確信しながら学ばせていただいています。一方で、三次修練の学生も回ってくるので、研修医になって早々指導する立場も経験できています。

中澤 教えることは自分の学びにもなりますので、そういった環境も存分に活かしてください。他にも大学病院では毎日様々なカンファレンスや勉強会が行われていて、各分野のエキスパートから学べる環境も貴重ですし、広い領域と無限の可能性を持っている大学病院を利用しないのはもったいないと思いますね。皆さんはそういった懐の深いところに飛び込んだわけですから、大学病院ならではの強みを最大限に活用してください。

初期研修プログラムの紹介

多様性と柔軟性を持つプログラム

当院の初期臨床研修には、「自由選択」、「小児科・産婦人科」、「地域医療重点」の3つのプログラムがあります。自由選択、小児科・産婦人科プログラムでは、当院の各診療科に併せて、様々な規模の協力病院・施設の中から診療科単位で研修先を選択でき、将来の目標に合わせた研修内容を柔軟に組み立

てることができます。また、地域医療重点プログラムでは、地域の中核病院から診療所まで地域医療に関連する全カテゴリーで研修することにより、「ローカル」としてではなく「コミュニティ」としての地域医療の連携を肌で感じ、深い理解を得ることができます。

恵まれた研修環境

当院の臨床研修は、高度かつ最先端の医療を実践するために最新の設備を整えた環境の中で、高い臨床力と人間性豊かな多くの指導医のもとで行われています。指導医数が多いことで、治療方針等について様々な考え方に触れる事ができる、個々の症例とじっくり向き合える、といったメリットがあります。必修科目である救急研修は、全国有数の規模を誇る当院の

高度救命救急センターで行い、1次から3次までの多彩な症例を診ることができるとともに、様々な手技の経験を積むことができます。救急研修時に不可欠なBLS、ACLS講習をプログラムに組み込み、講習料は当院が負担します。また、初期研修医のうちからカンファレンスや学会での発表の場や、論文作成などの機会が数多くあるのも大学病院ならではの環境です。

将来のキャリアアップに直結

初期研修終了後の進路として、より深い専門性を磨くための後期研修や、世界水準の研究ができる大学院への進学など、その後の生涯研修がシームレスに繋がる環境を整えています。

また、新専門医制度にもいち早く対応し、当院での初期研修

を修了後に後期研修を開始することでほぼ全ての基本領域において専門医資格を取得できる基幹型専門医研修プログラムを構築する予定です。

1. 自由選択プログラム

最大12ヶ月間の自由選択期間があり、一人一人のキャリアプランにマッチした効果的なプログラムを組むことが可能です。

| 区分 | 期間 | 内容 |
|-----------|--------|---|
| 必修科 | 内科 | 原則1年目（内科研修可能な協力病院での研修も可） |
| | 救急部門 | 1年目2ヶ月+2年目1ヶ月 |
| | 地域医療 | 原則2年目 |
| 選択必修科2科以上 | 各1ヶ月以上 | 小児科、精神科、産婦人科、外科、麻酔科から2科以上を選択（外科、麻酔科を当院で研修する場合は各2ヶ月以上） |
| 自由選択科 | 最大12ヶ月 | 当院のほか協力病院・施設から自由に選択が可能 |

2. 小児科・産婦人科プログラム

小児科あるいは産婦人科における臨床研修に重点を置きつつ、全人的な医療を実践するための臨床能力を身につけることを目的としています。

| 区分 | 期間 | 内容 |
|-----------|-----------------------|---|
| 必修科 | 内科 | 原則1年目（内科研修可能な協力病院での研修も可） |
| | 救急部門 | 1年目2ヶ月+2年目1ヶ月 |
| | 地域医療 | 原則2年目 |
| 選択必修科2科以上 | 3ヶ月（産婦人科は4ヶ月） | 1年目の4月から6月に小児科または産婦人科（産婦人科選択の場合は、+2年目にNICUにて1ヶ月研修） |
| | 1ヶ月以上 | 小児科または産婦人科、精神科、外科、麻酔科から1科以上を選択（外科、麻酔科を当院で研修する場合は各2ヶ月以上） |
| 自由選択科 | 小児:最大10ヶ月 産婦:最大9ヶ月 | 当院のほか協力病院・施設から自由に選択が可能 |

3. 地域医療重点プログラム

東北大学病院の多層的なネットワークを生かし、地域医療に必要な全分野を網羅できる充実の2年間で、未来の地域医療を担う医師を養成します。

宮城県医学生 修学資金利用者へのメリット

本プログラムで初期研修を行った場合に限り、基幹拠点病院*・拠点病院**研修期間の16ヶ月間は、指定医療機関勤務とみなし、義務年限としてカウントされます。

| 区分 | 期間 | 内容 |
|-----------|--------|---|
| 必修科 | 内科 | 原則1年目（基幹拠点病院*、拠点病院**での研修も可） |
| | 救急部門 | 当院にて1年目2ヶ月+2年目1ヶ月 |
| | 地域医療 | 原則2年目に基幹拠点病院*または拠点病院**研修期間中に行う |
| 選択必修科2科以上 | 各1ヶ月以上 | 小児科、精神科、産婦人科、外科、麻酔科から2科以上を選択（外科、麻酔科を当院で研修する場合は各2ヶ月以上） |
| 自由選択科 | 最大12ヶ月 | 当院のほか基幹拠点病院*、拠点病院**及びその協力施設 |

*：石巻赤十字病院、みやぎ県南中核病院
**：気仙沼市立病院、登米市立市民病院、栗原市立栗原中央病院、公立刈田総合病院

〈スケジュール例〉

| 月 | 1年目 | | | | | | | | | | | | 2年目 | | | | | | | | | | | |
|--------------------|-----|---|---|---|---|---|----|----|----|---|---|---|-----|---|---|---|---|---|----|----|----|---|---|---|
| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
| 東北大学病院研修 | ■ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3次救急施設 基幹拠点病院研修 | | | | | | | | | | | | | ■ | | | | | | | | | | | |
| 2次救急施設 拠点病院研修 | | | | | | | | | | | | | ■ | | | | | | | | | | | |

主な協力病院と受入診療科

必…必修科 選…選択必修科
自…自由選択科 として受入れ可能な診療科

東北地方全域と関東に広がる様々な規模の協力病院・施設と緊密に連携し、施設それぞれの役割に応じた研修を行うことができます。大学病院と協力病院との、異なる性格を持つ施設で研修することで、幅広い経験を積むことが可能です。



| | | |
|--|---|--|
| 北海道 帯広第一病院 必 内科 選 外科 | 青森県 青森県立中央病院 選 外科 | 青森県 独立行政法人国立病院機構 八戸病院 必 地域 |
| 青森県 十和田市立中央病院 選 外科 | 青森県 八戸市立市民病院 必 内科 選 外科・麻酔・小児・精神 自 リハビリ・皮膚・泌尿器・産婦・耳鼻咽喉・緩和医療・放射線・病理・救急 | 秋田県 雄勝中央病院 必 地域 選 外科 自 小児・泌尿器・産婦・耳鼻咽喉・麻酔 |
| 秋田県 大曲厚生医療センター 必 内科 選 外科・麻酔・小児 自 泌尿器・産婦・耳鼻咽喉 | 秋田県 市立角館総合病院 必 地域 自 内科・外科・精神科・泌尿器・産婦 | 秋田県 平鹿総合病院 必 内科 選 外科・小児 |
| 秋田県 本荘第一病院 必 内科 選 外科 | 秋田県 由利組合総合病院 必 内科 選 外科・麻酔・小児 自 泌尿器・産婦・眼科・耳鼻咽喉・放射線・病理診断 | 岩手県 岩手県立胆沢病院 必 内科 選 外科・麻酔 自 泌尿器・耳鼻・放射線 |
| 岩手県 岩手県立磐井病院 必 内科 選 外科・麻酔・小児 自 皮膚・泌尿器・産婦・放射線・救急・画像診断 | 岩手県 岩手県立大船渡病院 選 外科・小児 自 泌尿器・産婦 | 岩手県 岩手県立高田病院 必 地域 |
| 岩手県 岩手県立中部病院 必 内科 選 外科・麻酔・小児 自 緩和ケア・皮膚・泌尿器・産婦・眼科・放射線・救急 | 岩手県 岩手県立遠野病院 必 内科・地域 選 外科 | 岩手県 岩手県立南光病院 選 精神 |
| 岩手県 岩手県立宮古病院 必 内科・地域 選 外科・小児 自 泌尿器・産婦・放射線 | 岩手県 奥州市総合水沢病院 必 内科・地域 選 外科 | 岩手県 独立行政法人国立病院機構岩手病院 必 内科・地域 |
| 岩手県 独立行政法人国立病院機構花巻病院 選 精神 | 山形県 公立学校共済組合 東北中央病院 必 内科 選 外科 | 山形県 日本海総合病院 必 内科 選 外科 |
| 山形県 山形県立新庄病院 必 内科 選 外科・小児 自 産婦・耳鼻・放射線・麻酔・皮膚・泌尿器 | 山形県 山形県立中央病院 必 内科 選 外科 自 産婦 | 山形県 山形市立病院済生館 自 神経内科・整形・眼科 |
| 山形県 米沢市立病院 必 内科 選 外科・小児 自 放射線・泌尿器・女性泌尿器・産婦・眼科・リハビリ・救急 | 福島県 いわき市立総合磐城立病院 必 内科 選 外科・麻酔・小児 自 泌尿器・耳鼻・救急・産婦・病理診断 | 福島県 太田総合病院附属太田西ノ内病院 必 内科 |
| 福島県 公立相馬総合病院 必 内科 選 外科・小児 | 福島県 寿泉堂総合病院 必 内科 選 脳神経外科 | 福島県 白河厚生総合病院 必 内科・地域 選 外科・麻酔・小児 自 皮膚・泌尿器・産婦・耳鼻咽喉・放射線・救急 |
| 福島県 脳神経疾患研究所 附属総合南東北病院 必 内科・地域 選 外科・麻酔・小児・精神 自 泌尿器・産婦・放射線・眼科・耳鼻咽喉・病理診断・救急 | 福島県 竹田総合病院 必 内科 選 外科 自 放射線 | 福島県 独立行政法人労働者健康福祉機構 福島労災病院 必 内科 選 外科 |
| 福島県 星総合病院 必 内科 選 外科・麻酔・小児 | 宮城県 石巻市立病院 震災の影響により現在研修は行っていません。 | 宮城県 青葉病院 必 地域 選 精神 |
| 宮城県 石巻赤十字病院 必 内科 選 小児 自 整形・産婦・耳鼻咽喉・眼科・放射線診断 | 宮城県 いずみの杜診療所 必 地域 | 宮城県 大崎市民病院 必 内科 選 外科・麻酔・小児 自 泌尿器・産婦・耳鼻咽喉・眼科・放射線診断・病理診断・救急 |

| | | |
|---|---|--|
| 宮城県 岡部医院/岡部医院仙台 必 地域 | 宮城県 国見台病院 選 精神 | 宮城県 栗原市立栗原中央病院 必 内科 選 外科 |
| 宮城県 気仙沼市立病院 必 内科 選 外科・小児 自 麻酔・皮膚・泌尿器・産婦・眼科・耳鼻 | 宮城県 気仙沼市立本吉病院 必 地域 | 宮城県 広南病院 必 内科 選 外科 |
| 宮城県 公立刈田総合病院 必 内科 選 外科・麻酔・小児 自 産婦・眼科・リハビリ・放射線・病理診断 | 宮城県 南三陸病院 必 地域 | 宮城県 独立行政法人国立病院機構仙台医療センター 必 内科 選 外科・小児 自 産婦 |
| 宮城県 独立行政法人国立病院機構仙台西多賀病院 必 地域 | 宮城県 独立行政法人国立病院機構宮城病院 必 内科・地域 自 脳外 | 宮城県 坂総合病院 必 内科 |
| 宮城県 塩竈市立病院 必 内科 選 外科 | 宮城県 JR 仙台病院 必 内科 | 宮城県 JCHO 仙台病院 必 内科 選 外科・麻酔 自 救急 |
| 宮城県 JCHO 仙台南病院 必 内科 選 外科 | 宮城県 仙台往診クリニック 必 地域 | 宮城県 仙台オープン病院 必 内科 |
| 宮城県 仙台厚生病院 必 内科 選 外科 自 放射線・麻酔・病理診断・臨床検査 | 宮城県 仙台徳洲会病院 必 内科 選 外科 | 宮城県 仙台市生出診療所 必 地域 |
| 宮城県 仙台市立病院 必 内科 選 麻酔・小児 自 整形・産婦・耳鼻 | 宮城県 仙台赤十字病院 選 小児 自 整形・産婦・耳鼻咽喉 | 宮城県 社会福祉法人将道会 総合南東北病院 必 内科・地域 選 外科 |
| 宮城県 東北公済病院 必 内科 選 外科・麻酔・小児 自 産婦・泌尿器・耳鼻・眼科 | 宮城県 東北医科薬科大学病院 必 内科 選 外科・麻酔・精神 自 耳鼻・リハビリ・眼科・皮膚科・放射線・病理診断 | 宮城県 東北医科薬科大学若林病院 必 内科 選 外科 自 眼科 |
| 宮城県 独立行政法人労働者健康福祉機構 東北労災病院 必 内科 選 外科・麻酔 | 宮城県 登米市立登米市民病院 必 内科・地域 選 外科 | 宮城県 宮城厚生協会長町病院 必 地域 |
| 宮城県 丸森町国民健康保険丸森病院 必 地域 | 宮城県 宮城県対がん協会 自 地域保健 | 宮城県 宮城県赤十字血液センター 自 地域保健 |
| 宮城県 宮城県立がんセンター 必 内科・地域 選 外科 自 泌尿器・婦人・頭頸部外科・放射線・麻酔・緩和医療 | 宮城県 宮城県立こども病院 選 外科・小児 自 産婦 | 宮城県 みやぎ県南中核病院 必 内科 選 外科・麻酔・小児 自 泌尿器・産婦・救急 |
| 宮城県 涌谷町町民医療福祉センター 必 地域 | 茨城県 県北医療センター高萩協同病院 選 外科 | 茨城県 水戸医療センター 必 内科 選 外科 自 救急 |
| 埼玉県 国立障害者リハビリテーションセンター病院 選 外科 自 リハビリ | 埼玉県 さいたま赤十字病院 選 外科 | |

記載されていない診療科でも受入れ可能な場合があります。詳細はお問い合わせください。

研修医の一日

2年次研修医
東北大学卒業
(福島県出身)

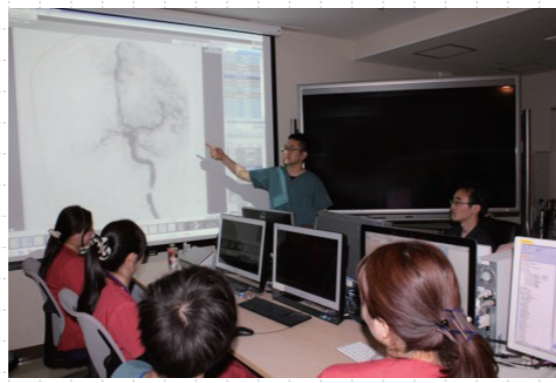
佐藤 大夢



Satch Taimu

7:00 プレラウンド

毎朝行われるカンファレンスの準備のために朝一で患者さんの情報を把握します。カルテでデータ確認をしてから患者さんを直接見に行き、プレゼンの内容を組み立てます。



8:15 朝カンファレンス

担当の患者さんの24時間の状態の報告とアセスメントを全体の前で行います。救急は時々刻々と患者さんの状態が変わっていくので、そのポイントを押さえて過不足なく簡潔にプレゼンすることが求められます。



10:00 朝回診

全体で回診をします。自分の担当する患者さんのときはプレゼンを行い、チーム全体で再度患者さんの把握に努めます。



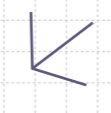
10:30 熱傷処置

当院は三次救急施設なので広範囲熱傷の患者さんが入院していることがあります。感染予防と創部の状態を確認するために毎日、創部洗浄とガーゼ交換などの処置を行っています。



11:30 手術

この日は担当の患者さんの手術の日でした。積極的に手術に参加して疾患と患者さんへの理解を深めます。



14:30 病棟業務

患者さんのその日の状態や検査結果から今後の方針を決めていきます。その後、自分の治療方針で間違いがないかを確認するために上級医に相談をします。病態が複雑な患者さんが多く分からないことがあっても、気軽に相談できる環境がとてもありがたいです。



15:00 後輩への指導

屋根瓦式で、自分が先輩に教えてもらったことを時間をみて指導します。自分が一年目のときにどういったことが分かっていなかったかを意識して行います。

15:30 急患対応

救急車で搬送された患者さんの対応をします。致死的な疾患や頻度の高い疾患を鑑別に挙げ、検査を組み立て、診察、治療を行います。



16:45 タカンファレンス&夕回診

朝と同じように、担当する患者さんの変化や救急搬送された患者さんの申し送りをしてから回診をします。

18:00 仕事終わり

業務終了後は豊富にある勉強会に参加したり、自己学習をしたり、研修医室にいる同期と遊びに出かけたりと自由に過ごします。

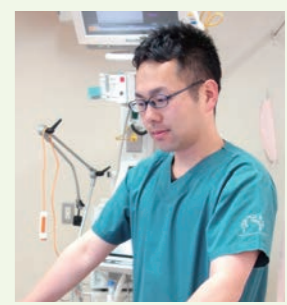


大学病院での研修の良さをもっと知ってもらいたい

ここでは全員がローテートする救急科での一日を書きましたが、研修医の一日の流れはどうだったでしょうか？大学病院というとマニアックな症例しかないと思われて敬遠されている方もいると思いますが、救急にはウォークイン可能な軽症外来もあるので、便秘症、過換気症候群、尿管結石など日常的にみられる疾患も十分に診ることが出来ます。また、常に救急医がいる体制になっているので、しっかりした指導を受けつつ当直ができるというのも、当院の強みであると言えます。

各科の研修でも、さらに細かく分かれた専門知識のある複数の指導医のもとで、マニアックな症例、コモンな症例どちらの症例も学ぶことができるのは他の診療科も同様です。

ここには書ききれなかったことがまだまだたくさんあるので、是非病院見学に来て、見学終了後は我々研修医の生の声を聞いてみてください。研修医一同お待ちしております。



研修環境

先端医療技術トレーニングセンター



国立大学病院の専用施設としては全国初となる、動物を用いた手術トレーニング施設です。実際の外科手術と同様に、手術の進め方や手術器具・器械の使用方法を、臨床の現場で手術を執刀している講師陣から学べる、研修医向けの外科トレーニングを定期的に開催しております。

東北大学クリニカル・スキルスラボ

東北大学クリニカル・スキルスラボには、医療現場を模した環境の中にシミュレーターや医療機器、備品などが多数整備されています。専任教員のサポートを受けながら、安全かつ効果的に臨床技能を繰り返し習得することができます。



クリニカル・スキルスラボでできること

- 急変対応 (BLS, ACLS など)
- 中心静脈カテーテル穿刺挿入
- 気管挿管・気道管理
- 縫合手技
- 人工呼吸管理
- 内視鏡検査手技
- 胸腔穿刺・ドレーン挿入
- 動脈採血
- 分娩助産
- 直腸診察
- 耳鏡を用いた鼓膜診察
- ER対応
- 超音波診断
- 心臓病診察・呼吸音聴診
- 麻酔管理
- 腹腔鏡下手術手技
- 腰椎穿刺・硬膜下麻酔
- 胸骨・脛骨穿刺
- 静脈路血管確保 (正中・手背)
- 乳がん触診
- 眼底鏡を用いた眼底診察
- 神経診察手技 など

東北大学附属図書館医学分館

休日にも利用できる図書館には、オンラインジャーナルや医学関連雑誌が充実しており、文献の検索や国内外の図書の取り寄せも可能です。



(蔵書数) 国内外図書 約42万冊、国内外雑誌 約13,500種類 ▶

研修医宿舎

病院のある星陵キャンパス敷地内にある研修医用の宿舎「星陵レジデンス」。県外から来られる方も、住まいの心配をせずに研修を始めることができます。月額15,000円で利用が可能です。



研修医室

昨年10月に卒後研修センターが移転リニューアルしました。

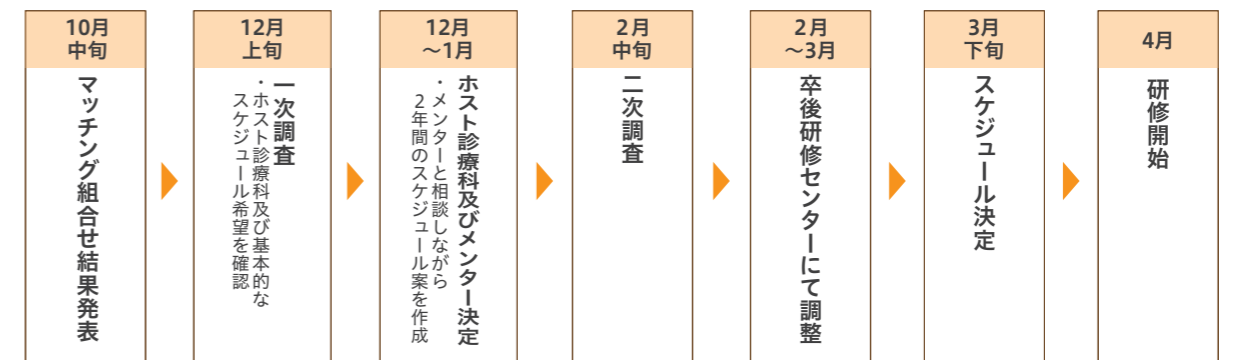
広々とした研修医室の隣には、研修医専用の仮眠室とシャワールームを備え、より快適に過ごしていただけるよう配慮しています。



スムーズに研修を開始していただくために

研修スケジュール決定までの流れ

入職後スムーズに研修を開始していただくため、マッチング決定後から3月下旬までの長期間にわたり、ホスト診療科の医師のサポートのもと、2年間の研修スケジュールを決めていきます。また、2年目のスケジュールは、1年目の後半に変更することが可能です。



オリエンテーション

入職後最初の2週間はオリエンテーション期間です。医療安全等の座学から、シミュレーターを使用した実習までしっかり学習します。

また、救急研修に不可欠なBLS講習をオリエンテーション期間中に受講します。



「ホスト診療科」とは

初期研修医をサポートする当院独自のシステムです。希望する診療科のメンターとなる医師が、マッチング決定後から、一人ひとりの目標に沿った研修ができるよう診療科や協力病院を選択するうえで相談役となります。その他、2年間を通して精神的な面も含め様々なサポートを行います。これは入局とは異なり、研修修了後は何の義務も負いません。志望科が未定の場合などは、卒後研修センターをホスト診療科として選択いただけます。



■ 研修医の声

研修医として充分活躍できます

研修先を皆が考える時期になると、いろいろな情報が飛び交い、どれが正しい選択なのか頭を悩ませることと思います。市中病院の方が初期研修医として経験すべき沢山の症例を経験できる、手技が豊富である、また大学病院では、細分化された専門分野について高度な医療が行われるため、研修医として関われる範囲が限られる、ということがよく言われます。実際の当院での研修はどうかというと、他病院では対応が困難な疾患に対して最終的に行われる治療や、三次救急施設でしか対処できない重症度の高い病態などに関わることができます。一方そのように高度な医療を受ける患者さんも入院中に便秘や感染症、せん妄から脳血管疾患まで様々な訴えが出現することがほとんどで、それらを鑑別・対応するという点に関しては初期研修医として十分に役割を果たすことができます。手技についても

実際には研修医が行う部分が多くなり、難症例が揃う分大学でしかできない高度な手技も経験できます。そして、年次の近い先輩方がどの科にも沢山いらっしゃるため、自分で考えた診断や治療方針に対して、その場でフィードバックを受けることや、相談しやすい環境が整っています。また、最新の研究の話題などが常に集まり、大学病院の恵まれた環境を実感することができます。ある程度の経験を積むまでは、初期研修医にとって情報が豊富であることがマイナスに働くことは少ないのではないかと思います。

当院のプログラムは、あらゆるニーズに応えられるよう選択肢が豊富なのが特徴です。将来研究を頑張りたい方や、専門性の高い診療科を志望される方はもちろん、地域医療や総合診療に興味のある方まで、全ての方におすすめる研修病院だと思います。



二宮 高洋
2年次研修医 山形大学卒

他大学出身者におすすめできる環境があります

私が当院を研修先に選んだのは、他大学出身であるということが大きな理由です。学生時代から、東北大には全国の大学から人が集まるというイメージを持っていました。私は病理医を目指しているため、稀少症例や難症例が集まる大学病院での研修というのが必然的に決まっています。自大学に残るのか、それとも他の大学で研修するのかを考えましたが、より見聞を広めるためには色々な考えを取り入れることが重要だと思い、出身大学に偏りが無い研修病院という答えに行きつきました。同期にも先輩にも同じ大学の出身者は少なく、初めて出会う方ばかりで緊張しましたが、指導医の先生方や先輩は皆さんとても優しく、また、たくさんの素晴らしい同期にも恵まれ、充実した研修生活を送ることができています。

ホスト診療科の病理の先生からは、研修医の間はできるだけ診療科を回って、患者さんと直接接する医師の側の経験をたくさん積む

ようアドバイスをいただきました。今後は、東北地方全域にある協力病院で、その地域に住む患者さんの抱える問題なども勉強していきたいと思っています。

研修医となって初めて仙台に住み、まだ知らないところもたくさんありますが、行き当たりばったりで出かけても、本屋さんや花屋さん、カフェなどが宿舎から徒歩圏内にあり、新しい発見ができるのを楽しんでいます。また、仙台は国際色が豊かで、患者さんとして来られた外国の方の診察をするという、とても貴重な経験もできました。

研修が始まって2ヶ月が経ち、最初は右も左も分からなかった私に、診療科の先生方が熱心に指導してくださり、次の診療科に移らなければならぬのが心苦しいほどです。「他大学出身でも大丈夫?」と心配されている学生さんに、自信をもっておすすめできる病院ですので、ぜひ一度見学にいらしてください。

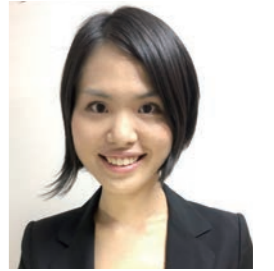


小山 千佳
1年次研修医 岩手医科大学卒

■ 研修修了者の声

「アドバンテージをもった初期研修を」

山形市立病院済生館 眼科科長 高田菜生子先生
(2013年度修了者)



2013年度に東北大学病院初期研修を修了し、2014年度より東北大学病院眼科後期研修医を2年経て、2016年度より山形市立病院済生館眼科医員、翌年より同院眼科科長として勤務しています。

マッチングや卒業時には、志望科を眼科と決めてはおりませんでした。将来的には臨床ももちろんですが、研究も両立して携わりたいと考えており、大学病院で研修することを決めました。

大学病院には、難症例や重症症例、またrareな疾患の患者様が多く、病態の考え方や治療戦略の検討など、日々レベルの高いカンファレンスにもまれ刺激的な毎日でした。身体所見や検査一つにしても様々な解釈があり、大学病院での研修だからこそ深められた経験だと思います。先生方から手厚くご指導いただきながら、色々な科で、学会発表や論文作成なども経験することができました。

最先端の大学での医療ならではの行われる手技や患者管理なども経験することができ、とくに、高度救命救急センターでの研修は、救急専門医のもと重症管理や手技を学べたことも現在に繋がる良い経験となっています。

私は1年目の12、1月に眼科をまわって、眼の構造が奥深く綺麗であること、視力の機能回復に携わる責任のある仕事であること、眼所見は全身の病態を推察し、全身疾患を診断できる重要な所見となること、研究も熱心な分野であること、など眼科の魅力に多々ふれることができ、眼科医を志すようになりました。

東北大学の研修プログラムは、1年目に2年目の研修を変更することができ、内容も自由度の高いものになります。眼科医になることを見据え、関連する内科を重点的に選択しながら、後期研修にスムーズにつなげられる

ようにスケジュールを調整しました。

眼科は診察方法や検査項目にしても専門性の高い手法になり、診断においても自分でみた所見のweightが大きいため、何をどのくらい診たことがあるか、経験したことがあるかが、キャリアに大きく響きます。症例の豊富な大学病院で初期研修から後期研修とスムーズにつながれたことは、現在の自分のキャリア形成にとっても重要な要素だったと考えます。また、眼科に関連する全身疾患はrareな疾患も多く、大学病院の専門の内科で、眼所見を重要とする内科疾患を多く経験でき、多くの先生方と繋がりを築けたことはとても貴重なことでした。

初期研修は皆に平等に義務付けられた期間であると同時に、個々の重要なキャリア形成期間です。大学病院はその機能の高さから、研修においても天井がなく、キャリアを突き進めることもできますし、広げることができます。アドバンテージをもって初期研修を修了できる場所であり、是非皆さんも東北大学病院での研修を選択していただければと思います。



募集要項

募集定員

- | | |
|------------------|-------|
| 1. 自由選択プログラム | 30名程度 |
| 2. 小児科・産婦人科プログラム | 4名程度 |
| 3. 地域医療重点プログラム | 4名程度 |

応募資格

東北大学病院で初期研修を行うことを希望する方

採用試験日程

- (第1回) 平成29年8月 9日(水) …《応募締切 8月 2日(水)必着》
 (第2回) 平成29年8月17日(木) …《応募締切 8月 10日(木)必着》
 (第3回) 平成29年9月 9日(土) …《応募締切 9月 1日(金)必着》

選考方法

面接試験

応募書類

- ①東北大学病院初期臨床研修申請書
 - ②履歴書(写真貼付) ③自己PR表
 - ④卒業見込証明書(卒業見込み者)
卒業証書の写しまたは卒業証明書の原本(既卒者)
 - ⑤成績証明書
 - ⑥返信用封筒
(長3サイズ、送付先住所・氏名を記載し切手512円分貼付)
- ※①～③の書類は、東北大学病院卒後研修センターHPよりダウンロードしてください。



応募・お問合せ先

東北大学病院卒後研修センター
 TEL.022-717-7765
 E-mail hos-sotu@grp.tohoku.ac.jp

詳細はHPをご覧ください
<http://www.sotuken.hosp.tohoku.ac.jp/index.html>

処遇について

| | |
|----------|---|
| 身分 | 准職員 医員(研修医) |
| 給与 | 月額 9,075円+諸手当(月額およそ30万円(税込み)の収入が見込まれます。) |
| 諸手当 | 宿日直手当(20,000円/回)、超過勤務手当、特殊勤務手当、通勤手当、退職手当 |
| 勤務時間 | 8時30分から17時15分 |
| 休暇 | 年次有給休暇(6ヶ月勤務後に10日間、2年目は11日間付与) リフレッシュ休暇(3日間)、忌引休暇、産前産後・病気休暇等 |
| 社会保険等 | 全国健康保険協会管掌健康保険、厚生年金、雇用・労災保険 |
| 医師賠償責任保険 | 病院として加入しているほか、個人としても加入 |

ご挨拶

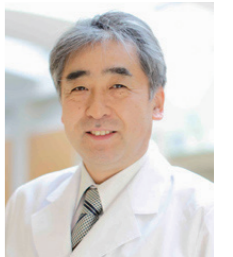
本院は、特定機能病院として高度先進医療を実践するとともに、医療技術の開発、優秀な医療人の育成に病院一丸となって取り組んでいます。

卒後研修センターにおいては、組織全体の指導力の向上を図るべく、研修環境の改善に日々取り組んでいます。昨年10月にはセンターを移転リニューアルし、研修医の皆さんにより快適に過ごしていただけるよう整備しました。今年度は専任スタッフを増員し、指導体制の一層の充実に努めております。また、最先端医療の更なる展開を図り整備を進めてきた新中央診療棟が間もなく竣工します。これまで以上に高度な機能を備えた手術室を中心に、ICU、高度救命救急センター、宮城県で初となる第1種感染

症病棟を設置し、機能性と安全性を両立する先端医療を皆さんに実践いただける場となります。

来年度からは専門医制度が新しく変わろうとしていますが、本院はほぼ全ての基本領域において基幹型専門医研修プログラムを構築し、万全の備えで対応します。領域によっては、初期研修で経験した症例の提出も一部可能となるため、稀少症例も含めてしっかりと経験しておくことが重要となり、本院はその点でも有利だと言えます。

これからも魅力ある研修環境を提供するとともに、病院全体で研修医の皆さんのサポートを行って参ります。より多くの皆さんに本院の臨床研修に参加していただけることをお待ちしております。



東北大学病院
病院長

八重樫 伸生

医学生として長年の研鑽を積み、ついに医師として歩みだす若手医師のみなさん、東北大学病院卒後臨床研修センターは、今後の医師人生に大きな影響を与える大切な初期研修がより充実したものになるよう最大限にサポートします。当院は長い歴史に支えられ、国内最大規模の病床数と診療科を武器に、地域医療と最先端医療を実践する我が国を代表する医療機関です。また、基礎研究力の高い東北大学医学部や東北メディカル・メガバンクと連携をとり総合力の高い学び舎となっております。

高度な医療を実践する大学病院ならではの専門医療の習得はもちろん、初期研修で求められるプライマリ・ケアの習得は協力病院を選択することでも可能であり、個々の目的とニーズに合った研修プログラムを作ることができます。また、東北大学病院では国内でもトップクラスの臨床力を有するクライニクス診療科があります。特定の診療科での研修を充

実させたいという希望があれば、2年間の研修中に最長12ヶ月特定の診療科で研修することが可能です。早い時期から多くの手技や知識を学び、後期研修では各科の一人前の医師として、充実した仕事のスタートを切ることが出来ます。さらに、衣食住に恵まれた宮城県ならではの楽しい懇親の場もあり、研修医の先生方の満足度は大変高く、充実した研修生活を送っています。

我々はすべての大学出身者の方にオープンな研修の機会を提供しています。興味を持っていただけたら、交通費のサポート制度もありますので、是非早い時期から積極的に見学にいらしてください。心より歓迎いたします。

医師としての第一歩である初期臨床研修を、世界に誇る東北大学病院と一緒に歩みだせることを期待しています。



東北大学病院
卒後研修センター長

中澤 徹



研修の合間に

街の中心を広瀬川が流れ、青葉山に城跡がある仙台市は、穏やかな四季を楽しむことができる街です。

夏は地元の野球チームである東北楽天イーグルスの試合観戦、秋には仙台名物芋煮会などの行事を毎年企画しており、研修医の皆さんに仙台を満喫していただいています。



病院見学随時受付中



交通費補助有り

見学にお越しいただく際の交通費の一部を補助します。詳細はHPをご覧ください。

当院ではほぼすべての診療科を見学いただくことが可能です。

見学に関するご要望にもできる限りお応えします。卒業研修センターホームページより、お気軽にお申し込みください。



見学後は研修医の生の声も聞けます

見学者の感想

- 今後、内科専門医を取得するうえで、大学病院で研修することのメリットを理解することができました。
- 5年生・6年生・初期研修医・後期研修医・指導医が一つのチームとして病棟を回るという理想的な形態を実現させている環境に、大変感銘を受けました。
- 研修医の先生方が、自分がどのような研修を行いたいのかを主体的に考えていることに驚きました。



東北大学病院

東北大学病院 卒業研修センター

〒980-8574

仙台市青葉区星陵町1番1号 東病棟 4F 卒業研修センター

Tel. 022-717-7765 Fax. 022-717-7143

✉ hos-sotu@grp.tohoku.ac.jp

東北大学病院 卒業

検索

<http://www.sotuken.hosp.tohoku.ac.jp/>



Access Map



見やすいユニバーサルフォントを使用しています。
Easy to read universal design fonts that are used.